

わたしはおねえさん

いしいむつみ 作
くろいけん 絵

① 歌を作るのがすきな すみれちゃんが、また一つ、歌を作りました。こんな歌です。

② わたしはおねえさん
やさしいおねえさん



元気なおねえさん
ちっちゃなかりんのおねえさん
一年生の子のおねえさん
すごいでしょ



③ 「おねえさんって、ちよっぴりえらくて やさしくて、がんばるもので、ああ、二年生になってしあわせ!」

④ この歌を 歌うたびに、すみれちゃんは そう思いました。

⑤ けさも、この歌を 歌っています。

⑥ 十月の日曜日の、気もちよく晴れた朝でした。

⑦ そんな朝に この歌を歌うと、お天気も、すみれちゃんの気もちも、もつとびかびかとかがや
くように、すみれちゃんには思えるのでした。

⑧ そして、えらいおねえさんになって、りっぱなことを したくなりました。
「そうだ。」

と、すみれちゃんは言いました。

⑨ それから心の中で、「えらいおねえさんは、朝のう

ちに しゆくだいをするんだわ。」と言いました。

⑩ 同じことを おかあさんに言われると、あまりいい気もちはしません。けれど、自分から思ったときは、すごくいい気もちです。すみれちゃんには、それがふしぎでした。

⑪ すみれちゃんは、つくえの上に、教科書を広げました。ノートも広げました。

⑫ でも、しゆくだいをはじめようとしたら、外が気になつてきました。すみれちゃんをつくえのすぐよこには、まどがあつて、花だんが見えます。花だんには、



春にたねをまいた コスモスが、いちめんにさいっていました。

⑬ ときどき風がふいて、コスモスの花が、いっせいにゆれます。そのようすは、コスモスが みんなで歌を歌っているようです。

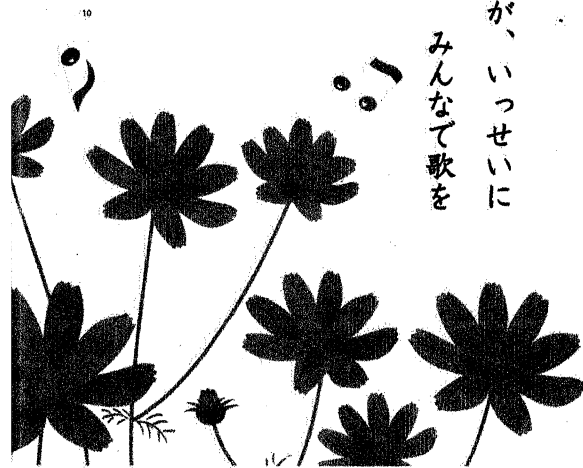
⑭ コスモスさん

コスモスさんも歌ってる

ゆらゆらゆらゆら歌ってる

お日さまがうれしいって歌ってる

お水がほしいって歌ってる



⑮ すみれちゃんの口から、しぜんと そんな歌が出てきました。

「そうだ、コスモスにお水をやらなくちゃ。」

と、すみれちゃんは言いました。そして、にわに出て、じょうろで水やりをしました。

⑯ さて、その間に、すみれちゃんのへやでは ちよつとしたことが おきていました。

⑰ 出っっぱなしのすみれちゃんのノートに、ニさいになった 妹のかりんちゃんが、えんぴつで、何かをかきはじめたのです。

⑱ すみれちゃんが 水やりからもどってくると、かりんちゃんは、まだ かいているさいちゆうでした。

すみれちゃんはおどろいて、

「かりん、何してるの。」

とききました。

「おべんきよ。」

と、かりんちゃんが言いました。

「もう、かりんたら、もう。」

と、すみれちゃんと言いました。

⑲ 半分ぐらい、なきそうでした。

もう半分は、おこりそうでした。

⑳ すみれちゃんには、自分が、なきたいのか おこりたいのか分かりませんでした。それで、じつと、ノートを

トを見ていました。かりんちゃんがかいた ぐちゃぐ



ちやのものを 見ていました。

「何よ、これ。」

と、すみれちゃんは言いました。

②1 すみれちゃんは、それが何か、知りたかったわけて

はありませんでした。けれど、かりんちゃんは、

「お花。」

と答えました。

「お花。これがお花なの。」

そう言うと、すみれちゃんは、かりんちゃんを見まし

た。かりんちゃんは、「そう。」と言うように うなず

答える

「あはは。」

すみれちゃんはわらいました。コスモスになんか

ちつとも見えない、ぐちゃぐちゃの絵が、かわいく

見えてきたのです。

「あはは。」

と、かりんちゃんもわらいました。

②4 それから、ふたりでたくさんわらってわらって、

わらいおわると、すみれちゃんと言いました。

「じゃあ、かりん。こんどは、ねえねがおべんきよう

するから、ちよつとどいてね。」

いいむつまじ
んは、「わたしちや
ん」「つくえの
のどおい園」など
も書いています。

きました。それから、まどの外をゆびさし

て、もういちど、

「お花。」

と言いました。

②2 そこには、すみれちゃんが 水をやったばかりの

コスモスがさいています。

②3 すみれちゃんは、

もういちど、ノート

を見ました。じっと。

ずっと。



「いいよ。」

②5 かりんちゃんがいすから下りて、

そのいすに すみれちゃんがすわ

りました。

②6 すみれちゃんは、ふてばこから

けしゴムを出して、かりんちゃん

がかいた絵を けそうとしました。

②7 けしかけて、でも けすのを

やめて、すみれちゃんは、つぎの

ページをひらきました。

